

<開発教育国際理解教育コンクール 3 実践授業例部門>

世界は友だち ガイドブックを作ろう



13時55分～14時55分 4階ホール
 6年 全校研究授業
題材 私たちのくらしと世界
テーマ 世界の人たちと仲よくするために
みんなに世界のことをもっと知ってもらおう！
ゴール 『世界は友だちガイドブック』を作ろう！



15時10分～16時30分 華陽公民館ホール
 全校研究会
講師 鈴木敏恵先生
『意欲』『考える力』を高めるコーチング
< 未来教育プロジェクト学習 & ポートフォリオ評価 >

平成15年10月21日

岐阜市立華陽小学校

プロジェクト学習指導案



13時55分～14時55分 4階ホール
 6年 全校研究授業
題材 私たちのくらしと世界
テーマ 世界の人たちと仲よくするために
みんなに世界のことをもっと知ってもらおう！
ゴール 『世界は友だちガイドブック』を作ろう！



15時10分～16時30分 華陽公民館ホール
 全校研究会
講師 鈴木敏恵先生
『意欲』『考える力』を高めるコーチング
< 未来教育プロジェクト学習 & ポートフォリオ評価 >

平成15年10月21日

岐阜市立華陽小学校

華陽小6年
わくわくタイム

題材

私たちのくらしと世界

ゴール

世界は友だち
ガイドブック

～世界の人たちと
仲よくするためには～

テーマ

世界の人たちと
仲よくするために
みんなに世界のことを
もつと知つてもらおう！

**第6学年
わくわくタイム(総合的な学習の時間)
学習指導案**

日 時：平成15年10月21日（火）

第5校時(13:55～14:55)

場 所：岐阜市立華陽小学校 4階ホール

指導者：6年 花組（26名）安田 幸典

星組（26名）坂井 裕美

1. 単元名 「私たちのくらしと世界」

2. 指導の立場

①単元の「ねらい」と「育てたい力」の明確化

子どもたちは、これまでに地域の河川を中心とした環境や、高齢者福祉に関心をもって取り組んできた。地域を学びの場として、「ひと」や「もの」と関わることから、自分自身も地域を構成している一人であり、自分自身の問題として積極的に関わることができることに気づいた。

6年生になって、学びの場を「地域」から、「世界」に広げることができると考えた。

インターネットなどの情報機器を活用する能力も高まり、世界への関心も高まりつつある。また、歴史では世界とのつながりを通して、くにづくりを進めた先人の姿に驚きをもって学ぶ姿が見られたことがその理由である。

自分のくらしが世界とどのようにつながっているのかを見つめさせ、世界には多様な価値観があることに気づいた子どもたちが、再び身のまわりにも多様な価値観があることに気づくことをねらっている。「地域」から「世界」へ目を向けた子どもたちが、再び「地域」へ目を向けるのである。そして、身近な人たちの物の見方考え方の違いも受け入れられることをねらって「私たちのくらしと世界」という題材を設定した。

「私たちのくらしと世界」のねらいは、

- 様々な価値観や生活習慣をもつ世界の人々が共存する世界を願い、身近な人に対しても物の見方や考え方の違いを尊重することができる。
- 題材に進んで関わっていくことで、自ら課題を見つけ、追究していくことができる。

また、この単元を通して「育てたい力」を

- 課題を見つける力：世界の様々な価値観や生活習慣に興味をもち、課題をもつことができる
- 課題を追究する力：課題解決に向かって見通しをもち、ねばり強く取り組むことができる
- 学び合う力：外国人の人や外国に住んでいた日本人から学んだり、仲間の学び方から学んだりすることができる
- 伝える力：世界とのつながりや異文化に関する自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝えることができる
- 生き方を考える力：国際人として、様々なものの見方や考え方の違いを尊重できる

とした。

②教師の持つ「テーマやゴールのイメージ」

**テーマ 子どもたちや世界で活動する人に伝えよう！
もっと 世界の人たちと なかよくするために 大切なこと
(願い)「世界の人たちと共に 仲よく くらせる未来にしたい」**

「文化の違い」を列挙することを目的としていない。文化の異なる人たちとよいつながりをもち続けるために、どんな違いに気をつけ、どのように行動するとよいのかを考え、国際社会で生きる未来の大人を相手にして学習を進めることをイメージした。

多様な価値観を「あたり前（=文化）の違い」と表現して、子どもたちの心情に働きかけることにした。

- 違いを学ぶことが、おたがいの文化を大切にすることになる。
 (あたり前の違いを知ることはおもしろいなあ。)
 (あたり前にしていることが違い、違うのがあたり前なんだ。)
- 違いを学ぶことが、世界に出て働くときに役に立つことになる。
- 違いを学ぶことが、世界の人々と関われる人を育てることになる。
 (みんなが知るといいのになあ。)
 (外国人の人と関わりをもとうとする人は知らないと困るだろうな。)
 (おたがいのあたり前を大切にする社会にしたいな。)

違いが見つかれば見つかるほど、「こんなに違うのに、なかよくすることはできるのだろうか。」「こうした違いをもつ人たちとなかよくしていくためには、どんなことを大切にしたらよいのだろう。」という思いを強くすると予想した。「なかよくする」という姿とは、「相手を尊重すること」や「相手を受け入れること」ができる姿と考えた。

ゴール 「世界の人たちと なかよくするためのガイドブック」

＜教師の願い＞あたり前としていることに込められた知恵に気づき、
 （すごいなあ！）と尊敬の念をもてるこだわって指導したい！

「旅行者のためのガイドブックはあっても、『仲よくするためのガイドブック』は見たことがない！」を励ましの言葉にしようと思った。
 どんな文化をもった人たちと仲よくしたいのかを考えて、国別のチーム分けをイメージすると、

- 「韓国人となかよくするためのガイドブック」
- 「パキスタンの人となかよくするためのガイドブック」
- 「ブラジルの人と なかよくするためのガイドブック」
- 「〇〇國の人と なかよくするためのガイドブック」

のようになった。
 また、国別ではなく、あいさつや食事の仕方、服装、トイレの使い方等に込められた知恵を紹介することで相手の文化の理解を深めることをイメージすると、

- 「世界の人たちと なかよくするあいさつ紹介ビデオ」
- 「世界の人たちと なかよくトイレブック」「世界の人たちの服装・知恵発見ブック」
- 「世界の人たちの食事の仕方ガイドブック」

のようになった。
 1チーム4～6名、10～12チーム程度を目安にすることや、プレゼンテーションの後、再構築のフェーズで作成した成果物を各種図書館や公民館に展示したり、他校の児童生徒にも読んでもらうこと、ホームページでその作品を海外の日本人学校の児童生徒にも見てもらうことなども想定した。

③フェーズの展開

テーマ・ゴールを考えてから、夏休みが入ることは学習意欲を持続させる上で難しいと考えた。
 1学期に「準備」、9月運動会が終わってから、「計画」→「情報リサーチ」と集中して取り組めるように時間配分を見直した。「プレゼンテーション」を11月5日。一人一人がガイドブック作りに取り組む「再構築」を11月中と見通し、次のようなフェーズ展開図を作成し、子どもたちと共有した。

この他、チームの構成は、2クラス合同にすること、できる限り、2クラス一緒に時間をもつこと、学級担任2名によるT.T.を基本にすること、プロジェクト学習解説書の言葉を頼りにしながら進めることを確認した。

フェーズの展開（全70時間）

プロジェクト学習6年 世界の人たちと協よくするために、世界のことをみんなに知ってもらおう！

「世界は友だちプロジェクト」を作ろう！

準備

・自分のくらしにつながる世界
・世界の人たちがあたり前に
していることを聞きこう

「身につく力」

「世界アート」
ために、世界の人たちとよくする
みんなに世界のことを
知つてもらおう！」

- 課題発見力
- 自己決定力
- 時代の事象を見る力
- 社会への参画力

「世界は友だちガイドブック」
プロジェクト

計画

- 戦略力
- 計画力
- 遂行力
- 発想力

情報リサーチ

- 対応力
- 情報スキル
- 情報機器活用力
- 情報を見極める力

制作

- 思考スキル
- 情報の取捨選択力
- 提案力
- 共有する力

「プレゼン
テーション」

- プレゼンテーション力
- 状況判断力
- 表現力
- 他者から学ぶ力

再構築

- 論理的に考える力
- デザイン力
- 推しいう力

成長エントリー

- 自己評価力
- 相互評価力
- 自己成長力
- 自己肯定力

9月24日

10月2日 10月8日 10月17日

12月3日 11月10日 11月5日 10月11日

第6学年 総合的な学習の時間「わくわくタイム」年間指導計画

岐阜市立華陽小学校

題材	テーマ	ゴール
私たちのくらしと世界	世界で活動しようとする人たちに伝えよう！もっと世界の人たちと仲よくするために大切なこと	世界の人たちと仲よくするためのガイドブックを作り、ホームページでも紹介する
フェーズ展開	活動のイメージ	開始日(予定時間)
準備 シート⑤⑥⑦⑧	<ul style="list-style-type: none"> □「くらしと世界とのつながり」について調べる。 □外国人の人や、外国に住んでいた人から、日本と外国の文化の違いについて話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・私たちのあたり前と ○○○国のあたり前の違い ・パキスタン、フィリピン、韓国、ブラジル、ロシア日本 	5月12日 (22時間)
テーマ・ゴー シート⑨⑩⑪⑫	<ul style="list-style-type: none"> □テーマとゴールを決める。シート⑤⑥ テーマ：世界で活動しようとする人たちに伝えよう！ ゴール：あいさつ紹介・食べ物や食べ方バッヂ 好きな遊びはこれ！・宗教ガイドブックなど □チームを作る シート⑦⑧ 	9月24日 (6時間)
計画 シート⑬⑭	<ul style="list-style-type: none"> □チームの提案について考える。シート⑨ □チームで企画書を作製する。シート⑩ □サーチの問題点と解決策について考える。シート⑪ □工程表を作製する。シート⑫ 行くこと（すること）・分担・準備する物 	10月2日 (4時間)
情報リサーチ シート⑮	□図書館の本をスタートにして、インターネットや在外日本人学校、Eメール、在日大使館、各種パンフレットを活用して調べる。シート⑬⑭リサーチシート	10月6日 (13時間)
制作 シート⑯⑰	<ul style="list-style-type: none"> □模造紙2枚で調べたことをまとめることをまとめる。シート⑯ プレゼン・持ち時間は？ 1チーム10分 誰に？ 6年生+教員+保護者+国際交流員 聞いてくれる人数は？ 約80名 場所は？ 4階ホール特設会場 	10月17日 (6時間)
プレゼンテーション シート⑯⑰	<ul style="list-style-type: none"> □プレゼンテーションの準備をする。シート⑯ □プレゼンテーションを行う。仲間の発表を聞く。 □プレゼンテーションのまとめをする。シート⑰ <p>※プレゼン 11月5日</p>	10月28日 (7時間)
再構築 シート⑲	<ul style="list-style-type: none"> □再構築する方法を学ぶ。シート⑯ □プレゼンテーションや、これまでのポートフォリオをもとにして、ガイドブックをまとめる。 □手順に沿って再構築の下書きをする。シート⑲ □再構築を行う。 	11月13日 (10時間)
成長エントリー	<ul style="list-style-type: none"> □ポートフォリオを活用してプロジェクト学習を通して得たことを振り返り、自分の成長したことを確かめる。シート⑲ □友だちの成長を伝える。シート⑳ 	12月3日 (4時間)

第6学年 総合的な学習の時間「わくわくタイム」評価規準

岐阜市立華陽小学校

＜目指す子どもたちの姿＞様々な価値観や生活習慣をもつ世界の人々が共存する世界を願い、身近な人に対してもものの見方や考え方の違いを尊重する子を育てることができる。

(周和教育の観点から)

＜身につけたい5つの力＞

	課題を見つける力	課題を追究する力	学び合う力	伝える力	生き方を考える力
全 体	世界の様々な価値観や生活習慣に興味をもち、課題をもつこ とができる	課題解決に向かって見通しをもち、ねば り強く取り組むこと ができる	外国人の人や外国に住 んでいた日本人から 学んだり、仲間の学 び方から学ぶこと ができる	世界とのつながりや 異文化に関する自分 の思いや考えを相手 にわかりやすく伝 える	国際人として、様々 なものの見方や考 え方の違いを尊重でき る
各 フ エ ー ズ に お け る 評 価 規 準	身近にある外国とのつな がりに興味関心をもてる	教室の中や家の中、身近な お店などで、世界とのつな がりを調べることができる 異文化の話を聞く際に観点を もって聞くことができる	聞いたことを仲間と共有す ることができる 話をする人に質問すること ができる	心に残ったことを仲間に話 すことができる	世界や日本における異文化 の存在に気づき、大切にし ようと考えることができる
	取り組みたいテーマをも ち、ゴールを見通すこと ができる	自分の知っていることを整 理することができる 仲間の考えを受け止め、確 かな根拠をもって整理するこ とができる	自分の願いと仲間の願いか ら、チームのテーマを明ら かにすることができる 世界の人たちと仲良くなろうと いう願いをもてる	自分の願いを仲間に伝える ことができる	社会に対する願いを考 え、テーマとしてもつこ ができる
	すべき仕事、時間のこと、 方法、必要なものなどを 模造紙に書き出すこと ができる	課題解決の見通しをもち、 工程表を作ることができる 世界の人たちと仲良くなるた めの方法を考え、解決の見通 しをもてる	チームの仲間と力を合わせ て解決の方法や手順を相談 することができる		
		困ったことやうまくいかな いことなどへの対応策、解 決策をイメージできる 様々な情報の中から確かな 情報を見極め、それをもとに して自分の考えをもてる	調べたことをチームの仲間 と共有することができる	調べる内容や意図を相手に 伝え、調べることができ	
		プレゼンテーションの「制 作物」を作るための手順を 知ることができる	話し合いを通して、伝えた いことをはっきりさせること ができる	伝えたいことをはっきりさ せて、模造紙2枚に伝えた い内容を工夫してまとめる ことができる 一人一人がもっている情報を 適切に生かして、根拠ある情 報をもとに制作できる	
			自分や仲間のプレゼンのよ さや改善点を伝え合い、受 け入れることができる 自分たちや他のチームの長 さや改善点を出し合い、共に高 まろうとすることができる	伝えたいことを短い言葉で 表現することができる 伝えたいことを図や写真を 使って効果的に表現するこ とができる	
		ポートフォリオをもとにし て、取り組んできたことを 組み立てることができる		考えたことを根拠ある情 報をもとに書いて表すこと ができる 考えたことを根拠ある情 報をもとに書いて表すこと ができる	
	活動や成果を振り返り、 よいところや課題を見つ けることができる	ポートフォリオに自分の成 長を見つけて付箋をつける ことができる	お互いのよさや伸びたとこ ろを見出し、紙に書いて伝 えることができる		自分のよさを認め、自信 をもち、自分を大切にす ることができる 自分のよさを認め、自信をも ち自分を大切にすることが できる

本時までの 指導の実際

- 準備
- テーマ・ゴール
- 計画
- 情報リサーチ

3. 指導の実際

準備

①子どもたちが、自分のくらしと世界とのつながりに目を向けることからスタート！

子どもたちは世界とのつながりというと、松井、イチロー、中田などスポーツ選手によるつながりがイメージの大部分で、身近なくらしの中につながりを実感していなかつた。自分の身のまわりに外国製品が溢れていることに気づかせることから、世界とのつながりに目を向けるように試みた。

身の回りにある様々な物が外国製品であることに気づいた子どもたちは次のような感想をもつた。



「びっくりしたな。予想以上にたくさんの国とつながりがある。地球の反対側からも！」
「中国製品がとても多いな。ヨーロッパの国々や南アメリカの国々ともつながっている。」
「もし、これらの国々とつながっていなかつたら、私たちのくらしはどうなっていたのだろう。」
「世界の人たちに私たちのくらしが支えられていたことに初めて気づいたよ！」
「でも、私たちは世界の国々のことを知らないなあ。名前すら知らなかつた国もあるよ。」
「知らないと困ることや失礼なこともあるかもしれないな。もっと知る必要がある。」
「もっと世界の国々のことを知りたいな。知りたくなってきた。」

世界の国の話を聞く動機付けをすることができた。

②「世界と日本のあたり前(=文化)の違い」に こだわりながら。

「世界の国の話を聞きたい。」子どもたちの願いに応えるため、岐阜県国際交流センターを訪れた。
ここで韓国、ブラジル、ロシアの交流員に話をしてもらうことになった。また、EFとしてお世話になっているクリス先生（フィリピン）と3年間パキスタンで生活した学級担任の話を加えた。

5月22日 パキスタン 29日 フィリピン

6月13日 韓国 18日 ブラジル 26日 ロシア

パキスタンの話を聞いた子どもたちは、右手を使って、カレーを食べることや、45度を超える夏にも関わらず、長袖長ズボンの服装をしていること、辛いカレーには秘密があること、1日5回のお祈りを大切にしていることなどにたいへん驚き、興味をもつた。

そして、それが「自分たちのあたり前にしていること」と異なるために驚いたことに気づいた。

さらに大人の拳骨2つ分もあるパキスタンの大きな松ぼっくりを見て、「うわあ、大きい。」と叫ぶ子どもたちに日本の松ぼっくりを見せた。

そして、「パキスタンの人がこれを見たら、どう思うだろう。」と尋ねた。

私たちとは反対に『なんて小さいのだろう』と、びっくりするだろう。
『変なの。こんな小さい松ぼっくりはおかしいよ。』と言いたくなる
かもしれないな。」



それぞれに自分が正しいと信じている「あたり前」があることに気づくことができた。「世界と日本あたり前の違い」が世界の国の話を聞くポイントになった。子どもたちに身近である「あたり前」という言葉を使うようにして、学習の最後には、「文化」という言葉に置き換えていくことを考えている。

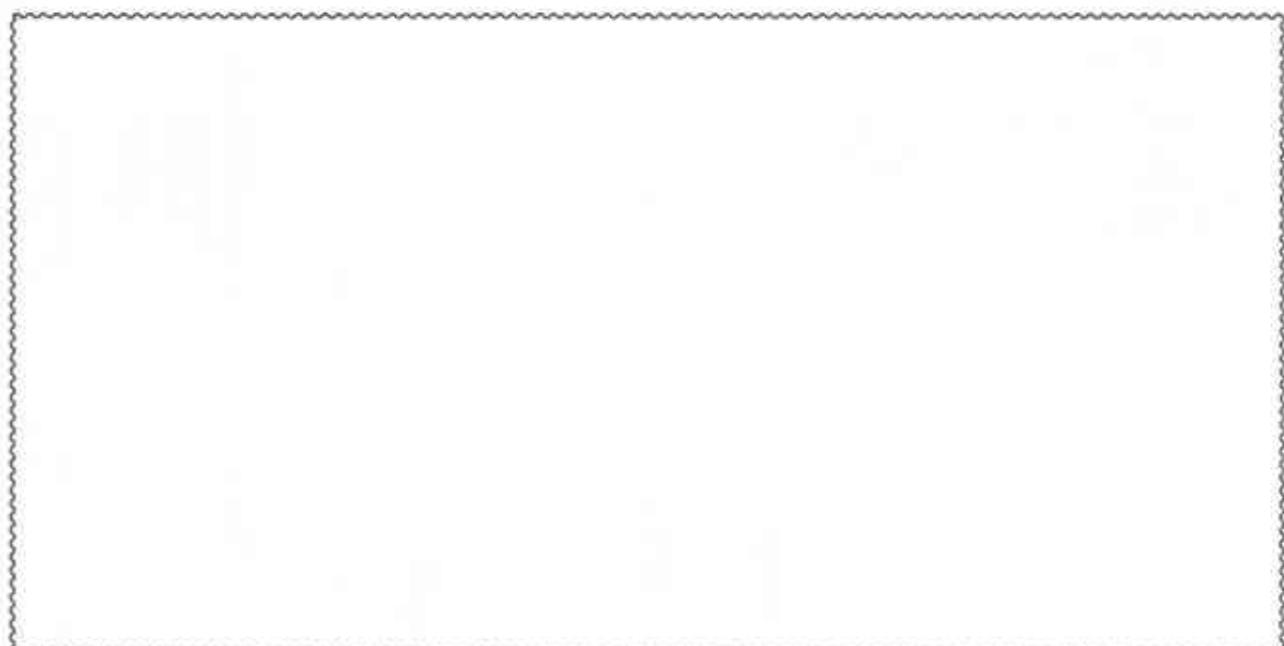
③日本のことにも知らない自分に気づいて。

6月の研究授業における鈴木敏恵先生のアドバイスを受けて、日本人のお話を聞く機会をもつた。浴衣を着た教頭先生による「梅干しの効能」「打ち水の効果」「浴衣の着方」「安心して飲める水」などのお話をから、日本のことなのに知らなかつたことや、日本の文化やそのよさにも目を向ける大きさに気づくことができた。



パキスタンの人たちのくらし

平成15年5月22日(木)

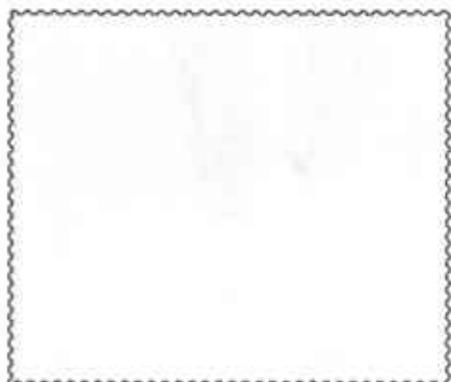


華陽小6年★わくわくタイム

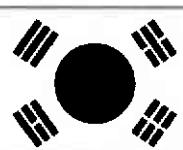


フィリピンの人たちのくらし

平成15年5月29日（木）



華陽小6年★わくわくタイム



韓国の人たちのくらし

平成15年6月13日（金）





ブラジルの人たちのくらし

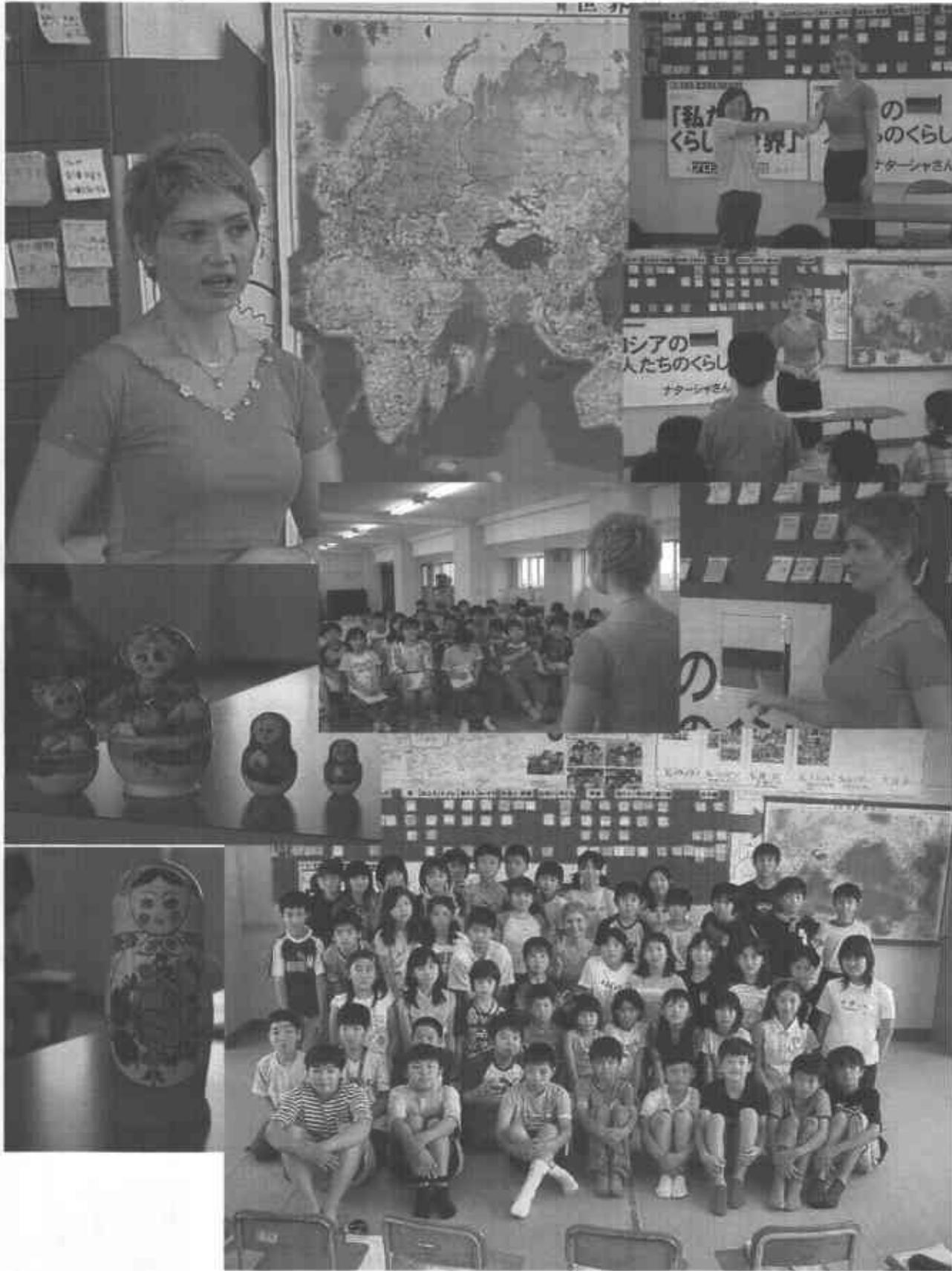
平成15年6月18日(水)



華陽小6年★わくわくタイム

ロシアの人たちのくらし

平成15年6月26日(木)



▼子どもたちが気づいた あたり前の違い

パキスタン	フィリピン	韓国	ブラジル	ロシア
				
右手を使って、カレーを食べる	手を使う 音を立ててはいけない	鉄のはしを使う お皿は置いて食べる	音を立ててはいけない	
1日3食カレーを食べる		ごはんを食べる 犬を食べる	へびや、うさぎを食べる ことがある	名物はボルシチとピロシキ
子どもたちは、大切な働き手になっている	子どもたちも仕事をしている	子どもたちは学校へ通っている		
イスラム教を信じて 1日5回お祈りする	キリスト教を信じて 1日3回お祈りをする	4割 キリスト教 3割 仏教 信じている		80%はキリスト教
あいさつは握手 アッサラームアレイクム	あいさつは握手 目上の人には握った手を頬にあてる		あいさつはキス	握手が基本 おじぎは自信がない証拠
服装は、長袖長ズボン シャルワルカミーズ	服装は、半袖半ズボン			
トイレでは水を使う 紙を使わない	トイレでは水を使う 紙を使わない	トイレでは紙を使う でも流さず、ゴミ箱へ	使用済みトイレットペーパーはゴミ箱に捨てる	
水が貴重なもの	水が貴重なもの	ふだんはシャワー 日曜朝は銭湯であかすり		
家が、石やレンガで できている	家が、木や石で できている	床下のパイプにお湯を流す =オンドル	瓦が赤い	窓ガラスが二重になって いる 壁の中を湯が流れている
甘い紅茶（チャイ）が 大好きな飲み物	やしの実のジュースが 大好きな飲み物	キムチは必ず食べる 給食にも出る		
豚肉はさわってもいい ない（イスラム教）	豚肉はおめでたい日の 一番のプレゼント クリスマスには豚の頭にリンゴを入れて飾る	おめでたい日は、ワカメスープを飲む 試験の日は飲まない		
学校に行きたくても 行けない子がいる 青空教室 黒板ノート	学校は、午前と午後	学校は日本と似ている 春休みはない ゴールデンウイークない		

④100人アンケートを通して。

2学期に入り、1学期に学んだ内容について、身のまわりの人たちがどのくらい知っているのかをアンケート調査した。10の設問を作り、知っているかどうかを尋ねた。一人あたり2~3名尋ねた結果、153名の回答が寄せられた。その結果から、自分たちも知らないでいた世界の「あたり前」を半数以上の身のまわりの人たちも知らないでいる事実がわかった。

華陽小6年★わくわくタイム



日本の 人たちのくらし

平成15年9月17日（水）



教頭先生のお話を聞いて

日本を見直しました！

- ・日本は幸せだと思う。水も飲めるし梅干しもある。
- ・日本の水は美味しいと初めて知った。
- ・日本の食生活が体にとてもよいことを知らなかった。
　アメリカやヨーロッパの人たちがヘルシーで素晴らしいと考えていることを知らなかった。
- ・水をうって涼しくする工夫を素晴らしいと思った。
- ・着物が日本の文化と知らなかった。
- ・教頭先生は浴衣を5分で着るなんてすごい！！
- ・日本でふつうに思っていたことにもすごいことがあると気づいた。

日本のことを知らないなど実感！

- ・日本に住んでいるのに日本のことまで知らないことが多かったのでびっくりした。話を聞いてよかったです。
- ・自分の住んでいる国だから全部知っていると思っていたけれども、梅干のことなど知らないことがまだまだあったので日本のことを知らないなと思った。
- ・日本には私たちの知らないことがまだいっぱいあると思った。

もっと日本のよいところを言えるようにしたい！

- ・教頭先生に日本のいいところを言えるかな？と聞かれて、ビックリした。もっと日本のよいところを言えるようにしたい。
- ・ぼくは日本のいいところを言って！と言われても、すぐに言えない。

日本のいいところを言えるようにしたい。

- ・はしをちゃんと持ちたい。
- ・梅干しのこと、着物のことなど日本人なのに日本について知らないことがたくさんだったので、もっと知ろうと思った。
- ・昔の日本人は、いろいろな知恵をしぶって生きていたことが分かった。先祖の知恵があったから、今の私たちの生活があるように思えてきた。とても幸せだと思った。

教頭先生ありがとうございました

テーマ・ゴール

①子どもたちの見出したテーマとゴール

題材について「よい点」と「問題点」について話し合った。

よい点

- ・世界中とのつながりがある。
(身のまわりの食べ物・電化製品など)
→私たちの生活が支えられている！
- ・世界の国の人と仲良くなつていける
- ・世界の文化がわかる。

問題点

- ・それぞれの国があたり前を知らない人が多い。
- 争いがおこる・悲しい思い
- ・言葉以外のものを使って関わりをもつことができない
- ・他の国の困っていることを知らなかつた。
- ・外国だけでなく、日本のよさを知らない

<試行錯誤 その①> 何についての「よい点」「問題点」なのか？

解説書の通りに、題材に関して学んだ「よい点」「問題点」という言葉を用いたが、子どもたちの中には、話を聞いた国におけるよい点と問題点をあげるのかと混乱する様子が見られた。

そこで、「私たちのくらしと世界」の「つながり」に注目するように、軌道修正した。
つながりの「よい点」「問題点」を意識するようになって、子どもたちはようやく納得し、話し合いを進めることができた。

→1学期における「準備」のフェーズで、「よい点」「問題点」について整理するチャンスがあった。今回のような「準備」を長く設定する場合、「題材」を意識して考えを整理する機会を意図的に仕組む必要があると考えられる。

この話し合いをもとにして、子どもたちが見出したテーマとゴールは次のようにある。

**テーマ 世界の人たちと仲よくするために、
みんなに 世界のことを もっと知つてもらおう！**

ゴール 「世界は友だち ガイドブック」を作る！

全体のテーマ・ゴールを決め、自分の願いをシートに書き出した。

<試行錯誤 その②> 「世界の人と仲よくする」とは、どういうことなのか？

書き出された子どもたちの願いに広がりが、見られなかつた。

- ・あいさつの仕方を教えてあげたい
- ・食事の仕方を教えてあげたい
- ・相手に失礼なことや相手が嫌がることを教えてあげたい
- ・遊びを教えてあげたい

直接的な「仲よくする方法」に終始してしまい、相手の国の文化を理解することに気づくことなく、書き終えている子が少なくなかった。私たち教師がこだわりたかった「あたり前としていることに込められた知恵に気づき、（すごいなあ！）と尊敬の念をもつてること」に遠いテーマになってしまったおそれがあることが分かつた。

そこで、「仲よくすること」の意味について話し合う場面をもつた。

「仲よくすること」とは、（相手とわかりあえること、相手を受け入れること、相手を尊敬すること）と確認し合ったあとで、もう一度、「世界の人たちと仲よくするためにみんなに知つてもらいたいこと」を書き出すと、上記のあいさつの仕方、食事の仕方、相手の嫌がることなどの他、

- ・外国の人に伝えたい日本のよさを教えてあげたい
- ・迷惑をかけず、恥をかかないトイレの使い方を教えてあげたい
- ・大切にしているお祈りのことを教えてあげたい
- ・言い伝えの知恵やこめられた思いを教えてあげたい
- ・家や服装の知恵のすばらしさを教えてあげたい

など、広がりだけでなく、深まりも見られた。見直す機会をもつてよかつた。

→子どもたちの願いを見て、もう一度見直す機会をもつことは、悪いことではないと考える。
→いきなり、一人思考で書くのではなく、こだわりたい思いについては、話し合いの場面をもつことがあってもよいと考える。

「仲よくする」とは、

- ・相手とわかりあえること
- ・相手を受け入れること
- ・相手を尊敬すること
- ・相手があたり前にしていることを
大切にすること
- ・相手があたり前としていることに
こめられた知恵に気づき、
すごいなあ！と尊敬の気持ちを
もてること



▲わくわくタイム(平成15年9月26日)
「テーマとゴール」のフェーズで話し合ったこと

②ブレーンストーミングとチームの提案

<試行錯誤 その③> 「～について」では、チームの提案にはならない。

チームを作り、初めてのブレーンストーミング。子どもたちは、模造紙の上を緊張しながら、ペンを動かした。方向にも、マス目にも、字の丁寧さにも大きさにもとらわれないで自分の考えを書く機会をこれまで設けてこなかったので、どうしたらよいのか戸惑ったのだろう。予定していた時間の終わり頃になって、その方法を飲み込めた子どもたちは活動的になった。



折り込んでいた模造紙の端を伸ばして、チームの提案を書きまとめる段階になって、提案の書き方が漠然としていることに気づいた。「～について」と書きそうなチームもあった。それでは調べたことをそのまま発表する調べ学習発表会や、体験したことそのまま発表する体験発表会になってしまおそれがあると考え、提案の書き方を穴埋め式で示した。すると、子どもたちは、次のようなチームの提案を書き出した。

<子どもたちの考えたチームの提案>

- ・世界に行く人や世界に住む人たちのために、世界のトイレの恥をかかない使い方を提案します。
- ・世界に行く人のために、覚えておきたい食事のマナーや食事の仕方を提案します。
- ・外国に行く人や外国から来た人に会う人のために、あいさつの動作や言葉を提案します。
- ・世界に羽ばたく人のために、相手が喜ぶこと（プレゼントのなまみ）を提案します。
- ・世界に行く人たちのために、相手に嫌がることをして争わなくてもよい方法を提案します。
- ・イスラム教を信じている人にこれから会う人のために、（イスラム教について）これだけは知つておかなければいけないことを提案します。
- ・これから外国へ行ったり、外国人の人と会ったりする人のために、知っておきたいお祈りの仕方を提案します。
- ・世界の人たちと関わり合う人たちのために、家の工夫のすごさを提案します。
- ・外国に行ったり外国から来た人を受け入れたりする人のために、服装の工夫の知恵を提案します。
- ・これから外国人の人と会う人のために、役に立つ言い伝えを提案します。



→ 次のような穴埋め式の書き方を提示することで、

(だれ) のために、 する方法を提案します！

子どもたちは、願いをいっそう具体化させた。

③工程表と子どもたちの様子

チーム	チームの提案	工程表に書き出した 調べる内容や方法	支援の意図など 子どもたちへのヒント
トイレ	世界に行く人や世界に住む人たちのために世界のトイレの恥をかかない使い方を提案します	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの形 ・トイレのまわりにある物 ・トイレの使い方 <p>ホームページ中心→お助けマン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手か水か紙か？ ・使用した紙の始末は？ <p>HP「世界のトイレ情報」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有料かどうか？ ・ふき方は？ ・座る向き？ ・紙か手か水か トウモロコシか石か？
食事の仕方	世界に行く人たちのために、覚えておきたい食事のマナーや食事の仕方を提案します	<ul style="list-style-type: none"> ・食事のマナー ・食事の仕方 <p>お助けマン→ホームページ→本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道具 ・食事中の音 げっぷ ・いただきますや、ごちそうさまの習慣 <p>HP「食事の作法」「世界の食事マナー 知識チェック」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国別のマナー紹介？
あいさつ	外国に行く人や外国から来た人に会う人のために、あいさつの動作や言葉を提案します	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつのしかた <p>外国に住んでいた人に聞く →お助けマン→インターネット →本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出会ったときの動作 (握手・抱き合う・キス) ・あいさつの言葉 おはよう こんにちは さようなら ありがとう <p>HP「世界のあいさつクイズ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの国の人が多い？ ・あいさつにおじぎは必要か それにかわるものは？
喜ぶこと	世界に羽ばたく人のために、相手が喜ぶこと(プレゼントのなまみ)を提案します	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が喜ぶこと ・プレゼントの中身 ・プレゼントを渡すとき <p>お助けマン→本 →ホームページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼントすると喜ばれる物は？ ・どんなときに贈るのか <p>クリスマスには? 誕生日には?</p>
嫌がること	世界に行く人たちのために、相手に嫌がることをして争わなくともよい方法を提案します	<ul style="list-style-type: none"> ・嫌がること <p>ポートフォリオ→メール→教えてコーナー→本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・左手の握手 ・贈り物にしてはいけない色 ・公共の場における子どもの振るまい <p>ヨーロッパに行く人は? アジアに行く人は?</p>

計画から情報リサーチ

①チームでの進め方をじっくりイメージさせる

これからすべきことを一人一人考え、2回目になるブレーンストーミングを行った。

1回目とはちがい、余裕をもってペンを動かす姿が見られた。また、前日のシートで「よいチームになるための約束やアイデア」を話し合ったため、(必ず一つは意見を言おう!) (自分勝手なことをしないで集中しよう!) (友達の意見をしっかり聞こう!)などの思いをもちながら取り組めた。

まず、チームへの参加の仕方をイメージさせることの大切さを感じた。

工程表を作る前に、情報リサーチの基本を学んだ。インターネットやメール、本や新聞、アンケートなどの調べ方をイメージしていた子どもたちが、その調べ方のよさと問題点・その解決方法を考えた。ホームページを探すには時間がかかることや、怪しい情報も多いこと、新聞や本は偏った意見で、真実でないことがあること、パンフレットは大げさに表されていることが多いことなどを考えることができた。一つの情報に頼らないことや、情報を得た際には、他の手段でも確かめることの大切さを学んだ子どもたちは、その成果を工程表にも生かすことができた。

②「世界各地のお助けマン」と「教えてコーナー」を紹介する

本やインターネットだけでなく、「人との関わり」を通して調べる経験をさせたいという願いから2つの方法を紹介した。

「世界各地のお助けマン」

国際交流センターで活動しているCIR(国際交流員)や、岐阜県から世界各地に派遣されている日本人学校の教員に連絡を取つて、協力できると返事をいただいた方を「お助けマン」として紹介した。

保護者にも協力を呼びかけており、今後も、増えていくことを見通している。

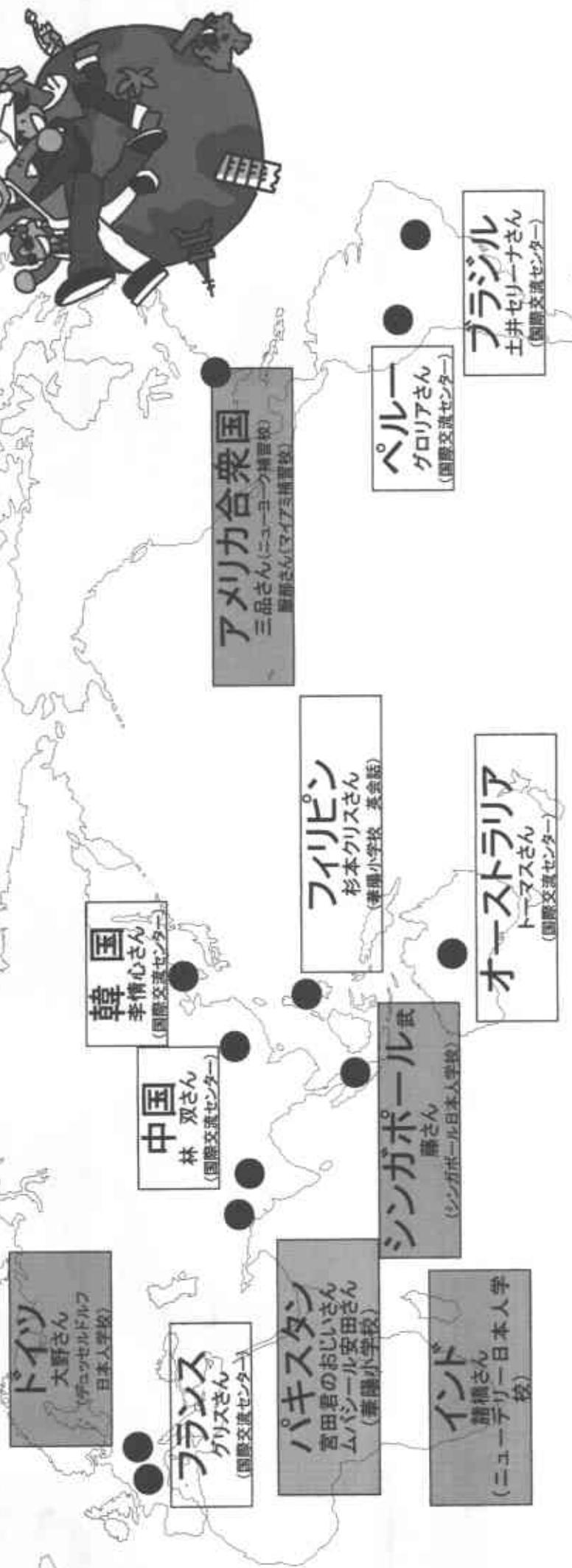


「教えてコーナー」

本校のホームページにパスワードをもたないと入れないコーナーを設けている。本年度は全ての保護者家庭にパスワードを知らせて協力を呼びかけている。子どもたちの質問に、気軽に答えていただけるような環境作りの試みを続けている。

	チームの提案	工程表に書き出した 調べる内容や方法	支援の意図 子どもたちへのヒント
イスラム教	イスラム教を信じている人にこれから会う人のために(イスラム教について)これだけは知っておかなければいけないことを提案します	<ul style="list-style-type: none"> ・どの国があたりに多いのか ・イスラム教の習慣、喜ばれること嫌がされること ・イスラム教を信じる人の一日 ・一見おかしいと思えること <p>本や新聞→ホームページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大切にしているコーラン ・肌を見せないこと ・お祈りの時間を大切にしていること ・食べてはいけない豚肉 <p>本「見たい知りたい学びたいパキスタン」</p>
おいのり	これから外国へ行ったり、外国人の人と会ったりする人のために、知っておきたいお祈りの仕方を提案します。	<ul style="list-style-type: none"> ・おいのりをする場所 ・だれにおいのりするのか ・おいのりの服装 ・おいのりのポーズ <p>お助けマン→ホームページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おいのりの方法や回数 ・イスラム教、キリスト教、仏教、その他
家の工夫	世界の人たちと関わり合う人たちのために、家の工夫のすごさを提案します。	<ul style="list-style-type: none"> ・家の工夫 <p>大工さんに聞く→ホームページ →本や新聞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシアの三重窓 ・インド 北向きの家 ・インドネシア 高床式の家 ・カナダ 二重窓 ・ギリシャ 強い日差しを防ぐ <p>・気候に合わせた家の工夫？</p>
服の工夫	外国に行ったり、外国から来た人を受け入れたりする人のために服装の工夫の知恵を提案します。	<ul style="list-style-type: none"> ・服装の工夫 ・服装の知恵？ ・服装の伝統的なこと？ <p>お助けマン→ホームページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パキスタンのシャルワルカミーズ ・インド サリー <p>・気候に合わせた服装の工夫？</p>
言い伝え	これから外国人と会う人のために、役に立つ言い伝えを提案します。	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜市に多くいる外国人(中国・韓国・フィリピン・ブラジル)の言い伝え ・日本の言い伝え <p>お助けマン→インタビュー→ホームページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教えてあげたい日本の言い伝え (梅干し・打ち水など) ・岐阜市に多い外国人の母国で伝わる言い伝え <p>・海外でかぜをひいたら、こうすれば治るかも？ 民間療法の知恵？</p>

世界の人たちと仲よくするためここ、世界のことをみんなに知つてもらおう！
世界は友だち ガイトラッシュ



世界各地のお助けナマソ! メールで質問!

国 大野さん (デュッセルドルフ 日本人学校)	世界各地の日本人学校で 働いている日本人の人	アメリカ合衆国 アンドリウ ジョンガポール	世界に住んでいた人 フィリピン パキスタン 杉本クリスさん 宮田昌一郎さん おばあさん おじいさん おばあさん おじいさん ムバシール安田さん
国 林 双さん (国際交流センター)	世界に住んでいた人 中国 李情心さん (国際交流センター)	アメリカ合衆国 トマスさん グロリアさん ケリスさん セリーナさん 林(リン)さん トマスさん グロリアさん ケリスさん	世界に住んでいた人 韓 李情心さん (国際交流センター)
国 三品さん(ニューヨーク 日本人学校) 黒崎さん(マイアミ 日本人学校)	世界に住んでいた人 アメリカ合衆国 アンドリウ ジョンガポール	世界に住んでいた人 フィリピン パキスタン 杉本クリスさん 宮田昌一郎さん おばあさん おじいさん おばあさん おじいさん ムバシール安田さん	世界に住んでいた人 アメリカ合衆国 アンドリウ ジョンガポール
国 宮田昌一郎さん (華陽小学校)	世界に住んでいた人 フィリピン パキスタン 杉本クリスさん 宮田昌一郎さん おばあさん おじいさん おばあさん おじいさん ムバシール安田さん	世界に住んでいた人 アメリカ合衆国 アンドリウ ジョンガポール	世界に住んでいた人 アメリカ合衆国 アンドリウ ジョンガポール

学校のホームページ「教えてコーナー」で調べる！



問題点は、いつ返事が来るのかがわからないこと。メールに比べたら返事が返ってこない確率は高いが、知らない人からも返事をいただける可能性がある！

4. フェーズ指導計画 制作

育てたい力 (同和教育の観点から)	学習活動
① プレゼンテーションの「制作物」を作るための手順を知ることができる	<p>□ プレゼンテーションのための基本情報を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーションの「持ち時間」 → 5分 ・ 「誰に」 プレゼンテーションするのか → 地域の人たち 保護者 国際交流員 他のチーム 約 150 名 ・ 聞いてくれる人数 ・ 空間的環境・機器設備 → 場所 体育館 パイプイス 100 脚 準備 児童イス 看板 「テーマとゴール」 マイク ・ プrezen の方法 → 模造紙 2 枚 色の制約 → 字の大きさの制約 → <p>□ 効果的なプレゼンテーションをかなえる流れを確認する。</p>
② 話し合いを通して、伝えたいことをはっきりさせることができる 一人一人がもっている情報を適切に生かして、根拠ある情報をもとに制作できる	<p>□ 集めた資料を整理して、提案の根拠や証拠を選ぶ。 □ 提案したいことがわかるグラフ、写真、イメージなどを決める。</p>
③ 伝えたいことをはっきりさせて、下書きを書き、模造紙 2 枚 ④ に伝えたい内容をまとめること ができる ⑤ 一人一人がもっている情報を ⑥ 適切に生かして、根拠ある情報をもとに制作できる	<p>□ どうしたら、わかりやすく伝わるのかを考えて、資料を並べる。 □ 大まかな下書きを作る。 □ 下書き全体を見て、デザインや色、組み立てを工夫する。 □ 下書きを生かし、全体を整え、「制作物」を完成させる。</p>

5. 校内研究との関わり

① 「学び合う力」を育てる学習過程のあり方

- 「相手意識・目的意識・願い」を明確にし、学習のゴールをイメージした課題づくり

→プロジェクト学習には、テーマ・ゴールの決定、計画、調べ方、発表の仕方など、子どもたちの意志を活かす一連の流れがある。これを一つずつていねいに進めていくことが「学び合う力」をつけると考えている。「一連の流れ」こそ、「学び合う力」を育てる学習過程である。

→プロジェクト学習において「学び合う力」を育てるポイントを次のように考えている。

- ・話し合いの前提として、「一人思考」の場を位置付けることで全員が話し合いに参加できるようになり、仲間と学び合うよさを実感させることができる。
- ・話し合いの際に、大きな紙にそれぞれの思いや考えを自由に表出す方法を探っている。字の大きさも丁寧さも方向も関係なく、思い思いで書き出す中で、おたがいの願いに気づくことができる。また、自分の願いを仲間に伝えることができるようになる。
- ・活動するチームのあり方について考える場面を設定している。よりよいチームにするためのやくそくやアイデアを意識させることで、集中力や向上心を持続させることができる。

② 子どものよさを評価する方法と支援のあり方（ポートフォリオ評価）

- 自己評価プリントを作成することと効果的に活用すること

- 子ども自身が、学習の歩みがわかるファイル、ノート、作品を作り残すこと

→子ども自身が、どんな力が付いたかを考える場面を設定して、自己評価するようにした。ポートフォリオシートの「今日の目標」に対して、どう取り組めたのかを「自己反省」として、毎回記入するようにした。

→教師は、毎回シートから子どもたちの活動や思いを把握するように努めた。「何のために」この活動をしているのかということを見失いがちな子どもを把握することができた。

→毎回記入したポートフォリオシートと自分が調べた資料をファイルし、自分の考えの変化に気づくようにした。

- 人権意識や行動力を高める支援のあり方

→自分のくらしが世界とつながっていることに気づき、「思いこみ」の危うさや、しっかりと事実を確かめる大切さを学ぶことができた。

→話を聞く時には必ずメモをとるようにし、話を聞いた後には自分の考えをまとめたり、仲間と交流したりする場面を位置付けた。イメージしていた様子とは異なることを知り、「思いこみ」の危うさに気づくことができた。

→話を聞いたメモや、聞いた後の自分の考えや感想を書いたノートを1冊のファイルに残していくようにした。（ポートフォリオ）すると、子どもたちは何度もそれを読み返し、自分なりの窓をもって話を聞くようになった。

→「あたり前のちがい」を追究する中で、現地に暮らす人たちの知恵に注目した。異文化を「ちがうから排除する」のではなく、「ちがいの意味を考え、受け入れてみる」ことが大切であることに気づくことができた。

本時の目標 本時の展開

□ 制 作

6. 本時の目標

- これまで集めた資料を見直して、プレゼンテーションにおいてチームとして提案したいことが、伝わるような資料を話し合いを通して選ぶことができる。
- (人権同和教育の観点から)根拠ある情報を選ぶことができる。

7. 本時の展開

ねらい	児童の学習活動	教師の支援	留意点など
<p>プレゼンは、調べたことをみんなで交流するだけじゃなくて、自分たちの提案はこれでいいのかを確かめる機会なんだな。発表会ではないんだ。いったいどうやって進めたらいいのかな。少し心配になってきたけれども、がんばるぞ！</p>			
①集めた情報を全員で俯瞰できるよう準備をする。 ②プレゼンテーションの基本情報を確かめる。	①集めた情報を並べる。 ②プレゼンの日時や場所、聞いてくれる人や人数を確認する。	①全ての情報をチーム全員で見ることができるよう場の設定をする。 ②基本情報として模造紙に書き出して提示する。 ・最後にチームの持ち時間を発表する。→3分！	※多くの資料を集めることができたのは、頼いをもって協力できた成果として、認め励ます！
<p>3分間で、提案をみんなにわかってもらえるように、これが大事！という情報を選び出そう！</p>			
③「何を」提案するのかを、活動前に再度確かめる。 ④話し合いのイメージをもつ。 20分 ⑤大切な情報を選び出すことを通じて提案内容を具体化する。	③チームの提案の中から、「ポイントとなる言葉」を話し合い、模造紙に線を引く。 35分 ④資料を選び出す場面を教師が演じて見せる。 <仲間分けする> <名前をつける> <代表を決める>これが大事！という情報	③選ぶときのより所とするように意識づける。 20分 ⑤集めた情報を仲間分けして、これが大事！という情報をしぶり出す。	※前時子どもたちは10分程度はほしいと話していたが、3分にすることで提案を明確にして伝えなければ！という切実感を持たせたい！
⑥発表方法の制約を通して、わかりやすく伝える工夫の必要性に気づかせる。 50分 ⑦聞き手を意識して提案をするための工夫をすることができる。	⑥模造紙2枚を使った発表形式のプレゼンであることと、模造紙を使うよさを説明する。 <全体を見て、一目で伝えられること> <残る物なので、発表後も見ることができること>	⑦選んだ資料の中から、伝えたいことが一目で分かるような写真やグラフ、図を選び出す。	※3分間を意識させ、大切な情報を選び出す過程で、仲間分けが必要になる。この仲間分けが、提案を具体化している姿と考える。 50分 ⑧自己評価する
	⑧自己評価を記入する。	⑧シートを回収する。	※模造紙を使うことがここで初めて明らかになる。 ※時間の制約と発表方法の制約を分けて提示することにより、話し合いを焦点化する。
<p>みんなと話し合って大事な資料を選ぶことができてよかった！大事な資料を選んでいたら、みんなに伝えることもずいぶんはつきりしてきたよ！3分間は、やはり短いけれども、みんなにわかってもらえる提案ができるそうだな。次の時間はこれをもとに下書きを作るのだな。</p>			





成果と課題

○たくさんの方に、しかも気持ちよく来ていただけた。さらに回数を追うに従い、子どもの関心も増して生き生きと話が聞けた。聞くたびに付箋を利用した視点の明確化がよかつた。

○6年生は準備に26時間かけた。その間に様々な国の「あたり前のちがい」に気づくことができた。この準備がなければ、子どもたちが提案する内容も大きく変わったと考えている。異文化理解を題材にした今回は、その本質に迫るためにも「準備」の時間に時間をかけることが大切であることがわかつた。

○願いをしっかりとめていないと、テーマが決められないことがわかつた。このテーマは学習の核となるものなのでじっくりしっかりと考えることが大切だと痛感した。
プロジェクト学習を先へ進めていく中で実感実感。

○子どもたちが「仲よくする」という意味をしっかりと考えていないことがわかつた。
「自分の願い」を書き出す場面では、自分の身のまわりで考えられる仲よくする方法に終始してしまった。相手を受け入れることや相手の文化を尊重することの大切さに気づかせたいという指導者の意図から大きくずれたために、「仲よくするとはどういうことか。」ともう一度考え直す場面をもつた。その後、子どもたちは大きく変わった。

○チームの数は10チームだった。2人の教師で把握するのでこれ以上は難しいと感じた。

○チームの提案は、「～のために～の方法を提案します」という穴埋め式を使って考えるようになっていたので、アイデアを生み出すことが大切であることを伝えられた。

○チームの提案は、相手意識をより具体的にもって意欲が出た。

○ゴールを達成するためにはどんなことが必要なのかを見通すことはなかなか難しいことだが、大切なことだと思った。ゴールを目指してどういう手順でそこまで行き着くかを考えることは将来とても必要になる力だと思った。

○この段階で「情報リサーチ」にあるシート11の調べるときの注意すべき点を考えることができた。調べ方をイメージすることができたのでよかつた。

○情報を捨てるよう言われたときは、えーっとという感じでショックだった。かなりシビアだが、本当に自分たちにとって必要なものかを考えることは力になった。

○チームのテーマ、それに対する具体的な提案をそれぞれ4つ切り画用紙に書き出した後、証拠をどのように表現するのかを考えるようにした。ここは簡単に進めないので一つ一つ教師に考えを話しに来るようにしてよかつた。

- 模造紙に起承転結を表現する力がまだないので、よい勉強になった。
 - 自分が社会に役立つと言うことを発見できたという感想をもつ子がいたこと自己肯定感をもてたと言えるだろう！！
 - これまでの苦労のかいもあって、いいものが提案できた。ひとりひとり自分たちが考えたことを聞いてもらいたい！わかつてもらいたい！という気持ちで行い、付箋でアドバイスや感想を書いてもらったり、直に反応をみることができ、自信につながった。
他の場面でも明らかに発言の様子が変容した児童もいた。
 - <伝えたいこと><相手にさせたい気持ち><そのためのこと>と考える道筋がはっきりしていたため、チームで話し合いながら、自分たちの力で進めることができた。
 - 全体発表形式だけでなく出店形式でも行ったので、聞く人が気軽に質問したり、聞く人の表情を見ながら話したりすることができた。
 - 国際交流員の2人から、異文化理解の考え方としてすばらしい！という評価を得て子どもたちも教師も大きな自信になった。
 - ホームページの「教えてコーナー」が役立った。世界各地の日本人学校に派遣されている先生方からお返事をいただくことができ、それを他のチームの友だちとも共有することができた。
 - 「世界各地のお助けマン」をいかに見つけるかが鍵になった。子どもたちの質問に一番早く対応してくれたのは、世界各地に派遣されている教員だった。岐阜県から派遣されている日本人学校教員のネットワークを活かす可能性が見いだせた。
 - メールを子どもたちが直接出すのではなく、紙に書かせて教師がまとめて送った。質問を寄せられる相手のことを考えれば、こうした方法を今後も続けた方がよいと考える。
 - 学校にある国際理解に関する資料を廊下に集めたことは、子どもたちが資料を身近にしてすぐに調べができる点と教師が子どもたちの動きを把握する点で効果的だった。
- ゲストティーチャー探し難しい。
- 身のまわりの人たちが「世界とのつながり」をどのように考えているのかをもっと調べる時間をもってもよかったです。今回は、100人アンケートにより、身近な人たちの異文化理解を調べたが、相手意識をより明確にするためにも、お店の人、銀行の人、駅員さん、警察の人など様々な方々からも、「世界とのつながり」を調べる時間を増やせば、

提案する相手を子どもたちはいっそう明確にもって取り組むことができただろう。

●ブレーンストーミングが難しかった。

●テーマとゴールは教科を加味して考えるとよい。

●題材に関する「よい点」「問題点」がはっきりとしなかった。これは題材と相手意識が漠然としていたためと考えられる。

●「～のために～の方法を提案します」という穴埋め式の場合、「方法」という言葉だけでなく、他の表現も含めて、考えやすくするような配慮が必要だった。

●ブレーンストーミングは難しかった。

●工程表を作っていく過程で各チームごとに担任が指導した。ここに時間をかけて大切に取り組めば、情報リサーチは子どもの力で進められる。

●やっていきながら、調査する中でどんどん次に行うことが出てくるのでこの段階は細かく引っ張らない方がよかったです。

●インターネットだけでなく、実際に話を聞くことが大きな勉強になった。

1学期に引き続いて、国際交流員に来てもらうことを考えればよかったです。

●記事分担をしたが、どうしても形にすると負担の偏りが出る子がいた。

●情報を「捨てる」という表現は、小学生の子どもたちにはよくないと考える。

情報を様々な考え方から「分類」し、その代表選手を出すという考え方も子どもたちに「考える場面」を設けることになり、問題ないと考える。捨てるか残すかというのではそれまでの調べた満足感も充実感も無にしてしまう可能性がある。あくまでも「代表」という位置づけにすることで、どの情報も価値あるものという思いを子どもたちにもたせておかなければいけないと考える。

●多くの子がおたがいの良さを認めながら、聞くことができたが、一部の子が客観的に評価できない姿を見せた。

フェーズごとの 成果と課題

岐阜市立華陽小学校

フェーズ	○成果と課題●
準備	<p>○準備に時間をたっぷりかけ、いろいろな人の角度から見る目を養うことでテーマゴーの必然性がはっきりとした。</p> <p>○親子交流会を開くことで自分たちの考え方や意識を広げることができた。</p> <p>○地域の人とふれ合うことで身近なところを見つめるようになり、お年寄りに対する見方が変容したり、気づきが多くなった。</p> <p>○安田先生の顔は大きい（広い？）おかげで、たくさんの方に、しかも気持ちよく来ていただけた。さらに回数を追うに従い、子どもの関心も増して生き生きと話が聞けた。聞くたびに付箋を利用した視点の明確化がよかったです。</p> <p>○6年生は準備に26時間をかけた。その間に様々な国の「あたり前のちがい」に気づくことができた。この準備がなければ、子どもたちが提案する内容も大きく変わったと考えている。異文化理解を題材にした今回は、その本質に迫るためにも「準備」の時間に時間をかけることが大切であることがわかった。</p> <p>●題材選びを失敗した。（4年）身近じゃなかった。気軽に調べに行けなかつた。 3年生は成功！</p> <p>●プロジェクト学習に適応する題材と範囲を教師がスタート地点で明確に持つことが大切である。</p> <p>●ゲストティーチャー探しが難しい。</p> <p>●身のまわりの人たちが、「世界とのつながり」をどのように考えているのかをもっと調べる時間をもってもよかったです。今回は「100人アンケート」により、身近な人たちの異文化理解を調べたが、相手意識をより明確にするためにも、お店の人、銀行の人、駅員さん、警察の人など様々な方々からも、「世界とのつながり」を調べる時間を増やせば、提案する相手を子どもたちはいっそう明確にもつて取り組むことができただろう。</p>

フェーズ	○成果と課題●
テーマ ゴール	<p>○準備の段階で今の公園のよい点や問題点がはっきりとしていたので、子どもたちの中から自然にテーマとゴールが生まれた。</p> <p>○「～のために」というミッションをもつことは、方向性がはっきりと見いだせて意欲付けになった。</p> <p>○願いをしっかりともてていないと、テーマが決められないことがわかった。このテーマは学習の核となるものなのでじっくりしっかりと考えることが大切だと痛感した。プロジェクト学習を先へ進めていく中で実感実感。</p> <p>○子どもたちが「仲よくする」という意味をしっかりと考えていなことがわかつた。「自分の願い」を書き出す場面で、自分の身のまわりで考えられる仲よくする方法に終始してしまった。相手を受け入れることや相手の文化を尊重することの大切さに気づかせたいという指導者の意図から大きくずれたために、「仲よくするとは、どういうことか。」ともう一度考え直す場面をもった。その後、子どもたちは大きく変わった。</p> <p>○チームの数は10チームだった。2人の教師で把握するのでこれ以上は難しいと感じた。</p> <p>○チームの提案は、「～のために～の方法を提案します」という穴埋め式を使って考えるようにしたので、アイデアを生み出すことが大切であることを伝えられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●提言のイメージが湧かず、難しかった。 ●チームに人数が願い別にすると、2人というのもできてしまうが2人のとりくみでもよいのだろうか。 ●ブレーンストーミングが難しかった。 ●テーマとゴールは教科を加味して考えるとよい。 ●題材に関する「よい点」「問題点」がはっきりとしなかった。これは題材と、相手意識が漠然としていたためと考えられる。 ●「～のために～の方法を提案します」という穴埋め式の場合、「方法」という言葉だけでなく、他の表現も含めて、考えやすくするような配慮が必要だった。
計画	<p>○チームの提案は、相手意識をより具体的にもって意欲が出た。</p> <p>○ゴールを達成するためにはどんなことが必要なのかを見通すことはなかなか難しいことだが、大切なことだと思った。ゴールを目指してどういう手順でそこまで行き着くかを考えることは将来とても必要になる力だと思った。</p> <p>○この段階で「情報リサーチ」にあるシート11の調べるときの注意すべき点を考えることができた。調べ方をイメージすることができたのでよかったです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ブレーンストーミングは難しかった。 ●工程表を作っていく過程で各チームごとに担任が指導した。ここに時間をかけて大切に取り組めば、情報リサーチは子どもの力で進められる。 ●やっていきながら、調査する中でどんどん次に行うことが出てくるのでこの段階は細かく引っ張らない方がよかったです。

フェーズ	○成果と課題●
情報 リサーチ	<p>○インタビューをして地域の人や外部の人にアポイントをとって、電話などをしたりなどして結論を得るために裏付け調査ができ、自身をつけた。</p> <p>○3年生では、正しい情報を得るためにどこに聞けばよいのか、どういう方法でインターネットの公式ページを開くのかを教えたので、正しい情報を得ることができた。</p> <p>○国語の「インタビューをしよう」「アンケートを探ってまとめよう」の学習と関連づけて情報リサーチを進められてよかったです。</p> <p>○直接、社会の人と話をする中で福祉に対する（小さい子あるいはお年寄りに対する自分たちのものの見方を含め）意識の甘さを認識することができた。</p> <p>○情報源の確保が大変！今年は大勢の方の協力がありできた。確かなという部分へのこだわりが教師側に弱かったが、プレゼンに向けての活動をし始めた途端にその大切さに教師の側がやっと気づけた。</p> <p>○ホームページの「教えてコーナー」が役立った。世界各地の日本人学校に派遣されている先生方からお返事をいただくことができ、それを他のチームの友だちとも共有することができた。</p> <p>○「世界各地のお助けマン」をいかに見つけるかが鍵になった。子どもたちの質問に一番早く対応してくれたのは、世界各地に派遣されている教員だった。岐阜県から派遣されている日本人学校教員のネットワークを活かす可能性が見いだせた。</p> <p>○メールを子どもたちが直接出すのではなく、紙に書かせて教師がまとめて送った。質問を寄せられる相手のことを考えれば、こうした方法を今後も続けた方がよいと考える。</p> <p>○学校にある国際理解に関する資料を廊下に集めたことは、子どもたちが資料を身近にして、すぐに調べることができる点と教師が子どもたちの動きを把握する点で効果的だった。</p> <p>○一つの情報を2つ以上の情報源から確かめようとする姿勢は、子どもたちの中に根付きつつあるように感じられた。確かな情報をもとに考える学びの姿があった。</p> <p>●川などの実態調査に何度も出たいときも安全確保のためにサポートが多くいるのでここでも題材選びがポイントになった。</p> <p>●中学年は、チーム別活動を子どもだけで進めるのは難しい。毎時助言が必要で担任だけでは、対応しきれなかった。</p> <p>●対象が人であるだけでアンケートにてもインタビューにしても同時期に集中してしまうし、地域の実態調査で数をとろうとすると、この期間では難しかった。チームによる期間の幅が必要である。</p> <p>●生き生きとやっていたが、調べること自体が楽しくなってしまい、目的（テーマ）を忘れてしまっていた。</p> <p>●教師がどのような調べ方ができるのかが、子どもたちの活動を左右する。教員がどれだけ子どもたちの調べようとすることに先回りして、相手を見つけることができるかが鍵になる。そう言う意味では、テーマ・ゴールを1学期にすませておき、ここからを2学期に始めれば、夏休み中に調べることができる。</p> <p>●工程表に毎時間自己反省を書かせた、調べているうちに当初の計画どおりには進まなくなるので、毎回アクションシートを書くようにすればよかったです。</p> <p>●インターネットだけでなく、実際に話を聞くことが大きな勉強になった。 1学期に引き続いで、国際交流員に来てもらうことを考えればよかったです。</p>

フェーズ	○成果と課題●
制作	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生はどこに何を書くのかの基本型を決めて取り組んだので、初めてのことだが、見通しをもって進められた。 ○国語の学習が多少生かせ、発表物、スピーチするときの材料という意識でまずはストーリーを話し合い、それに応じて必要かどうかを判断し、情報をまとめる姿が見られた。 ○情報を捨てるように言われたときは、えーっとという感じでショックだった。かなりシビアだが、本当に自分たちにとって必要なものかを考えることは力になった。 ○チームのテーマ、それに対する具体的な提案をそれぞれ4つ切り画用紙に書き出した後、証拠をどのように表現するのかを考えるようにした。ここは簡単に進ませないで一つ一つ教師に考えを話しに来るようにしてよかったです。 ○模造紙に起承転結を表現する力がまだないので、よい勉強になった。 ●記事分担をしたが、どうしても形にすると負担の偏りが出る子がいた。 ●情報を「捨てる」という表現は、小学生の子どもたちにはよくないと考える。情報を様々な考え方から「分類」し、その代表選手を出すという考え方も子どもたちに「考える場面」を設けることになり、問題ないと考える。捨てるか残すかというのではそれまでの調べた満足感も充実感も無にしてしまう可能性がある。あくまでも「代表」という位置づけにすることで、どの情報も価値あるものという思いを子どもたちにはもたせておかなければいけないと考える。
プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの人の前で自分たちの考えを大きな声で精一杯発表でき、自信がついた。 ○3、4年の学年間で交流したことや、6年生のプレゼンを見せてもらったことでプレゼンテーションのイメージをもつことができた。 ○地域の人、中央青少年会館の先生にも来て頂き、評価を受けて、子どもたちも教師も自信がついた。 ○自分が社会に役立つと言うことを発見できたという感想をもつ子がいたことは自己肯定感をもてたと言えるだろう！！ ○地域の方にも心を動かして頂いた内容がいくつもあり、プレゼン後にさっそく、実際にやらないかという声をかけてもらえる姿があった。 ○チェック項目を自分たちで考えることで相手に伝えようとする意識もより高まり、発表方法も工夫することができた。 ○これまでの苦労のかいもあって、いいものが提案できた。ひとりひとり自分が考えたことを聞いてもらいたい！わかってもらいたい！という気持ちで行い、付箋でアドバイスや感想を書いてもらったり、直に反応をみることができ、自信につながった。他の場面でも明らかに発言の様子が変容した児童もいた。 ○<伝えたいこと><相手にさせたい気持ち><そのためにしてすること>と考える道筋がはっきりしていたため、チームで話し合いながら、自分たちの力で進めることができた。 ○全体発表形式だけでなく、出店形式でも行ったので、聞く人が気軽に質問したり、聞く人の表情を見ながら話したりすることができた。 ○国際交流員の2人から、異文化理解の考え方としてすばらしい！という評価を得て子どもたちも教師も大きな自信になった。 ●多くの子がおたがいの良さを認めながら、聞くことができたが、一部の子が客観的に評価できない姿を見せた。

フェーズ	○成果と課題●
再構築	<p>○今までチームのメンバーに頼りがちだった子も、しっかりと自分なりに関わってきた子も、自分の考えをもって書いていた。</p> <p>○自分なりのこだわりをもって提案できた子も多く、プロジェクト全体のテーマを本当に自分のものとして考えられるようになったんだ！うれしく思った。</p> <p>●チームでの活動の際に、しっかりと自分自身で考えていなかつた子は、なかなか取り組めず、進めることもできなかつた。確かな情報へのこだわりも弱かつた。</p>
成長 エントリー	

その他(全体を通して)

- ・国際交流員や日本人学校の先生方など協力して頂ける人材の確保が大変かな？安田先生のような方が見えなければそれだけで教師が引いてしまいそう。
- ・教科の学習だけでなく、学校生活全てが基盤になっている活動であると実感した。
- ・教科のテストの点がよい子が、必ずしも主体的に取り組めるとは限らなかつた。テストにはつながらないが、自分なりのこだわりをもって地道に調べる力をもつ子を見いだせた。

子どもたちが 作り上げた プレゼン資料

～3分で伝えるために～



世界の人達と間わり合う人達のために世界の人達のすごい！を見つける方法を提案します！～家の工夫を通して～

チームメンバー
・鈴木美子・柳原妙乃・松尾雅美・矢島大津
・吉田実生・赤堀裕理・高橋留

韓国 寒さ対策<冬は0度以下>
オンドルといって寒い部屋の中にあたたかい空気が空気から通して床を温めている。
(音、おがいあぶる音、こんな音)
→あたたかい空気が流れている!!

カナダ 冷たい風対策
(窓がフードにされていて寒い風が入ってこない)
→(インテグレートカナダのくらし)

フィリピン しき風通し対策
高いやねになっている。それははしひけを防いだり、風通しがいい。(30度)<世界の子供たちの(信頼)

インドネシア 高床式対策
高床式になっている。それは湿気やカビなどを防ぐ。風通しを良くする。(45度)<世界の住まいと日本の暮らし>

ギリシア 日差し対策
白いかべにして、さらに窓を小さくして強い日差しを防いでいる。
(二重窓や複数窓など)

チニニア 気温対策
屋は暑く夜はすれいので、金属性の中に壁造ると暑くもなく寒くもない。うまい温度である。
(再生の木)

提呈
世界の気候に合わせて造られた家の工夫を見れば尊敬の気持ちをもてます!!

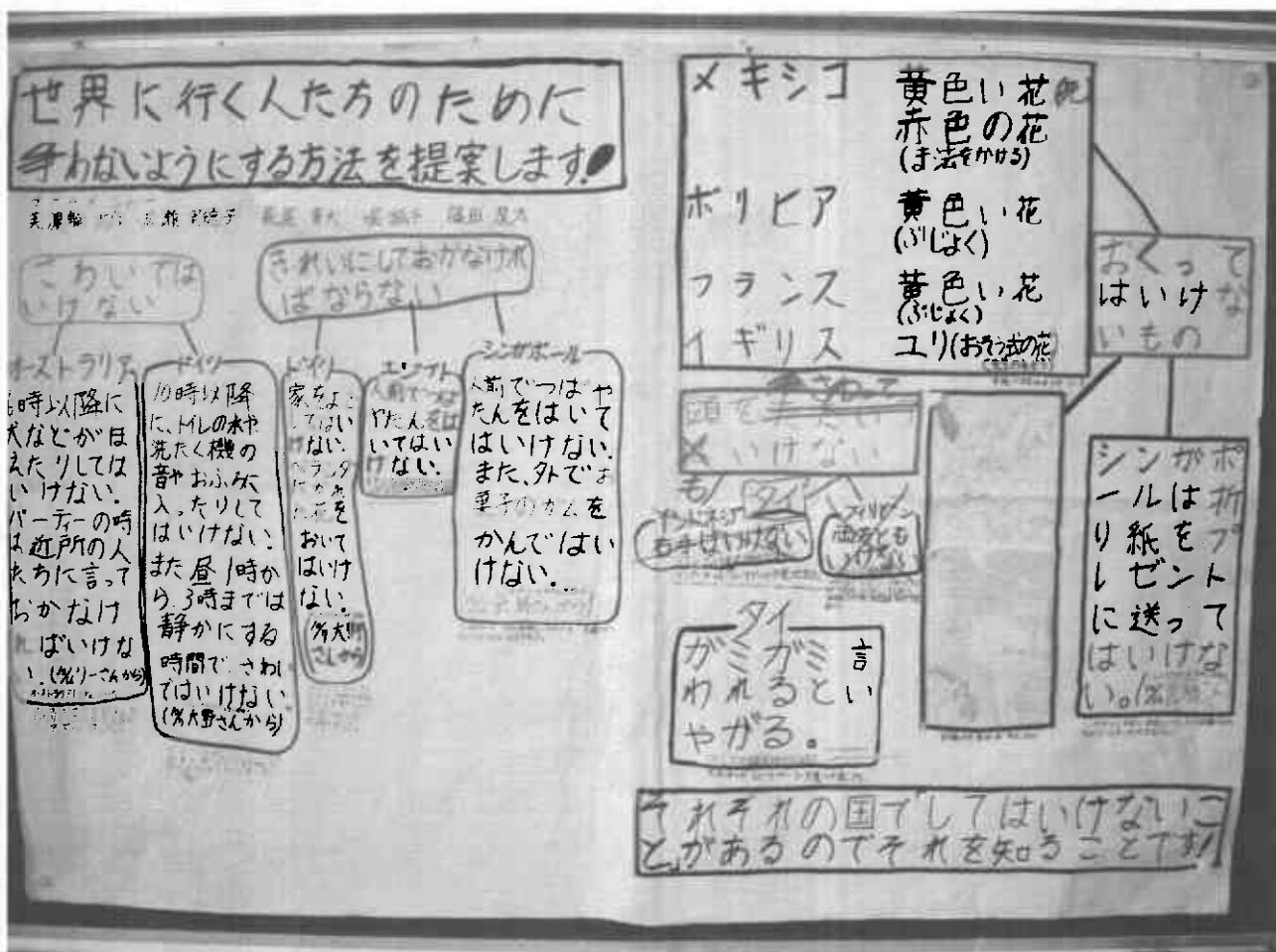
气候に合わせて造られた家！



▲チームの提案が決まった！
<10月2日 4階ホール>



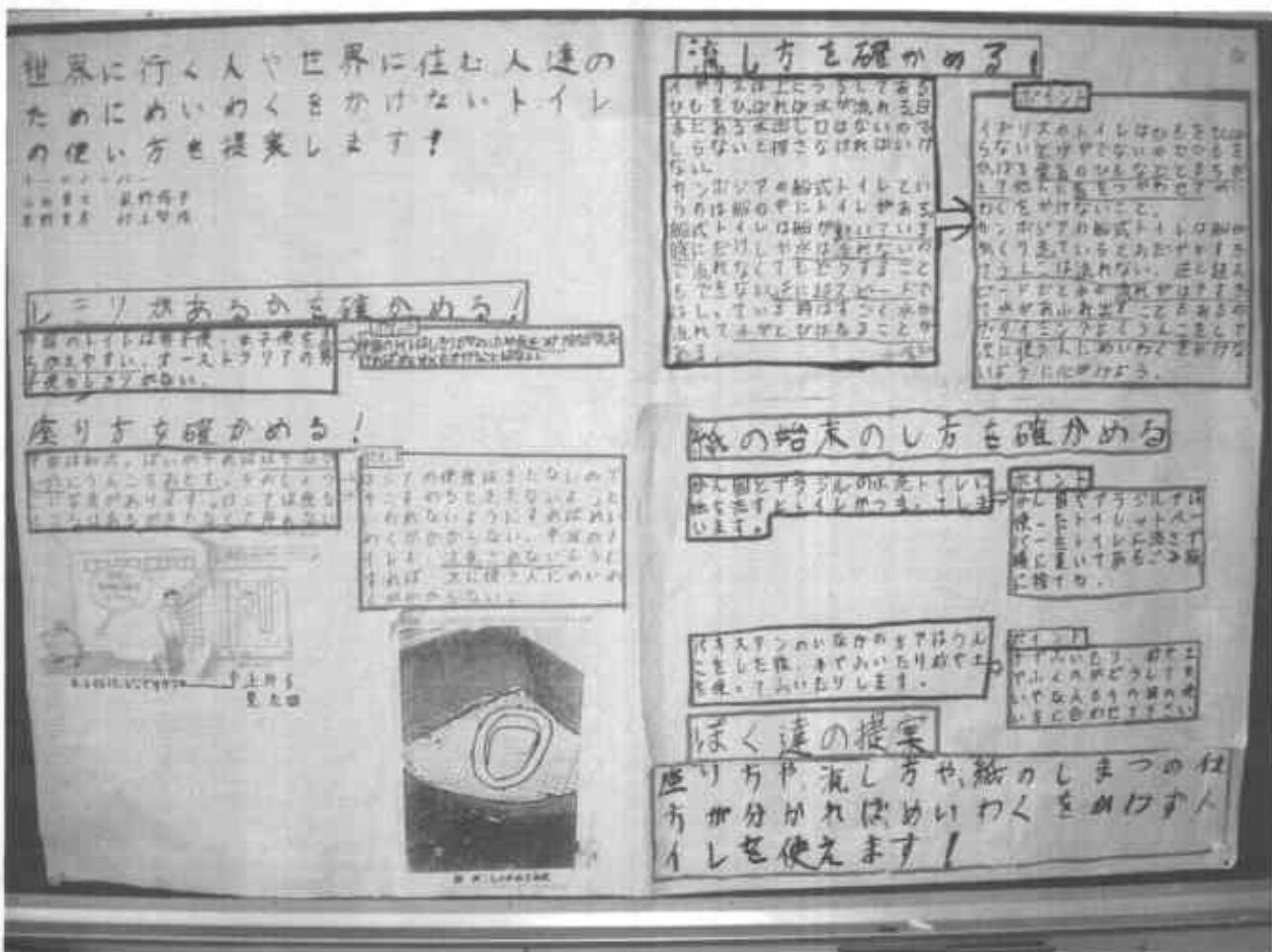
▲制作物完成！プレゼン成功！
<12月4日 6年教室前>



▲チームの提案が決まった！
<10月2日 4階ホール>



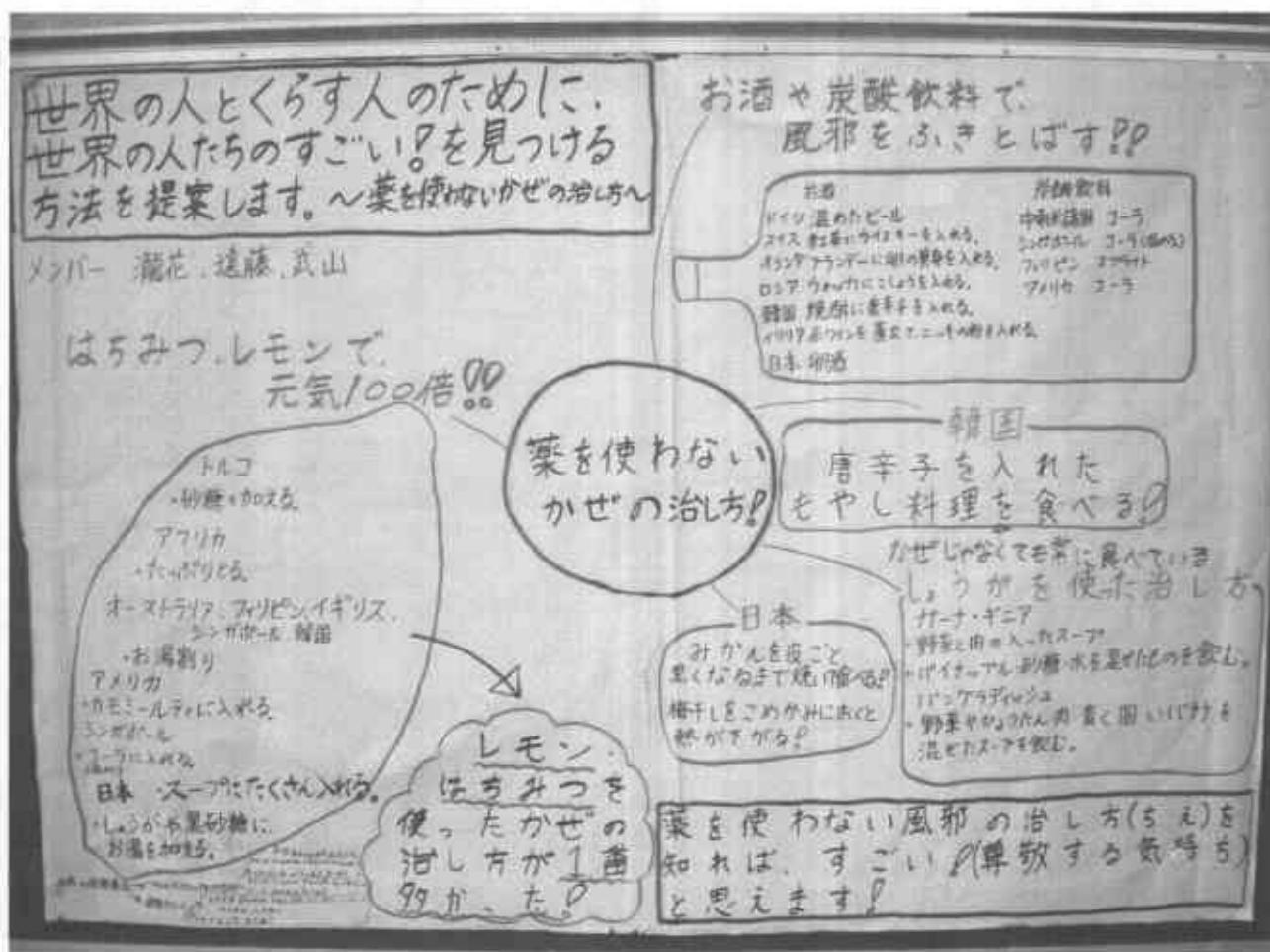
▲制作物完成！プレゼン成功！
<12月4日 6年教室前>



▲チームの提案が決まった！
<10月2日 4階ホール>



▲制作物完成！プレゼン成功！
<12月4日 6年教室前>



▲チームの提案が決まった!
<10月2日 4階ホール>



▲制作物完成! プrezen成功!
<12月4日 6年教室前>

外國に行く人や外國の人を受け入れる人のために世界の人たちのすごいPPを見つける方法を提案します!!

～服装～工夫～酒～

寒い国の人たちはこんな工夫をしている!!

オランダのクロンベンは氷に強い!!

オランダはクロンベンといいます。なぜ? オランダは北極圏に位置する国で、冬は非常に寒いですが、そこで彼らが何をやっているか?

カナダの毛皮の服は暖かい寒さ対応!!

世界で一番北に住むエスキモー人は、特製の雪化粧をクリーフー北極圏のサバンナなどの毛皮の服を作ります。

なぜ? それは体温の熱を逃がさず、温かく体温が失われるのを防ぐ。厳しい寒さから身を守ります。また、水が凍るのを防ぎます。

衣服は2枚重ねで着て、寒さを防いでいるだけ。

モンゴルの強い風や寒さ対応!!

モンゴル人は生活必需品と同じドキドキと呼ぶ毛皮の羽衣を羽衣として使っています。ヒツジの毛皮、その毛の下には毛皮を防ぐから。

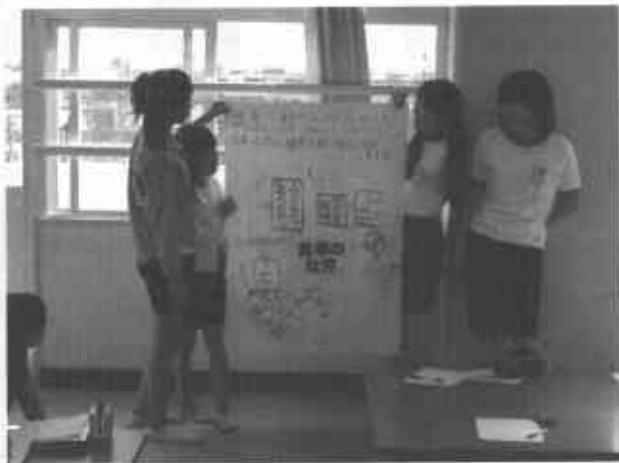
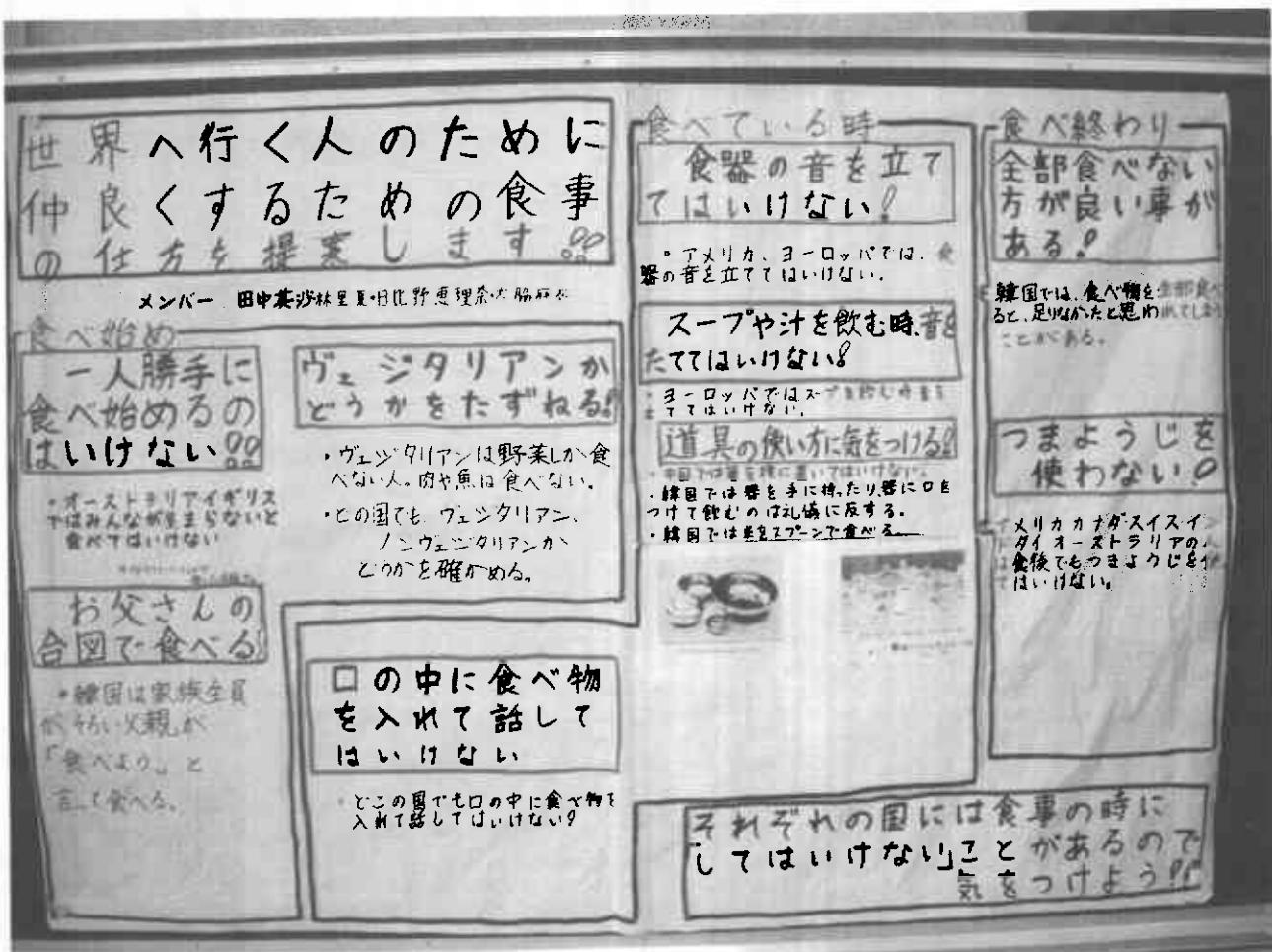
世界の気候に合った服装の工夫・知恵を見つければ、相手の人達を尊敬(すごいPP)できるようになります。



▲チームの提案が決まった!
<10月2日 4階ホール>



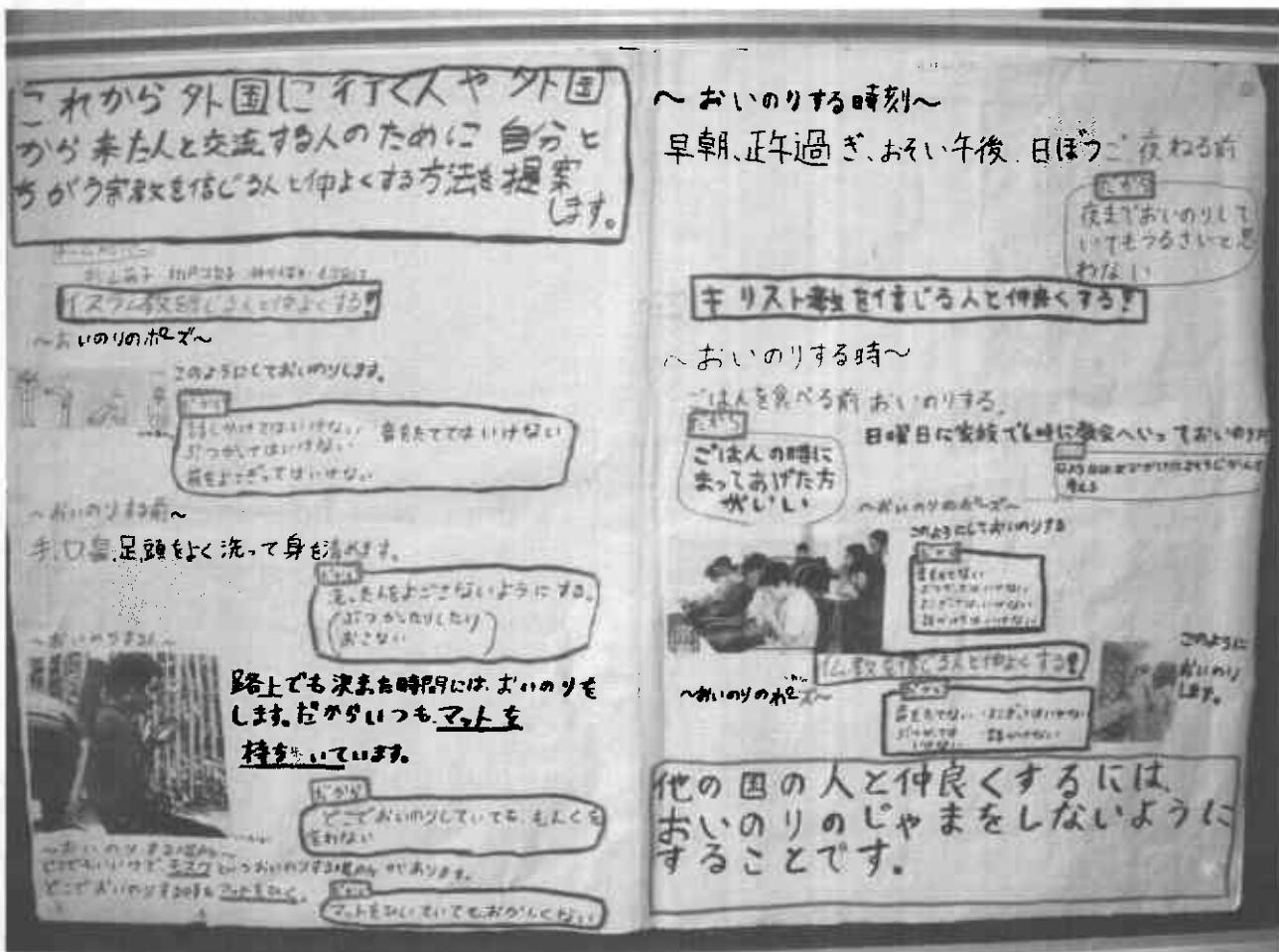
▲制作物完成! プレゼン成功!
<12月4日 6年教室前>



▲チームの提案が決まった！
<10月2日 4階ホール>



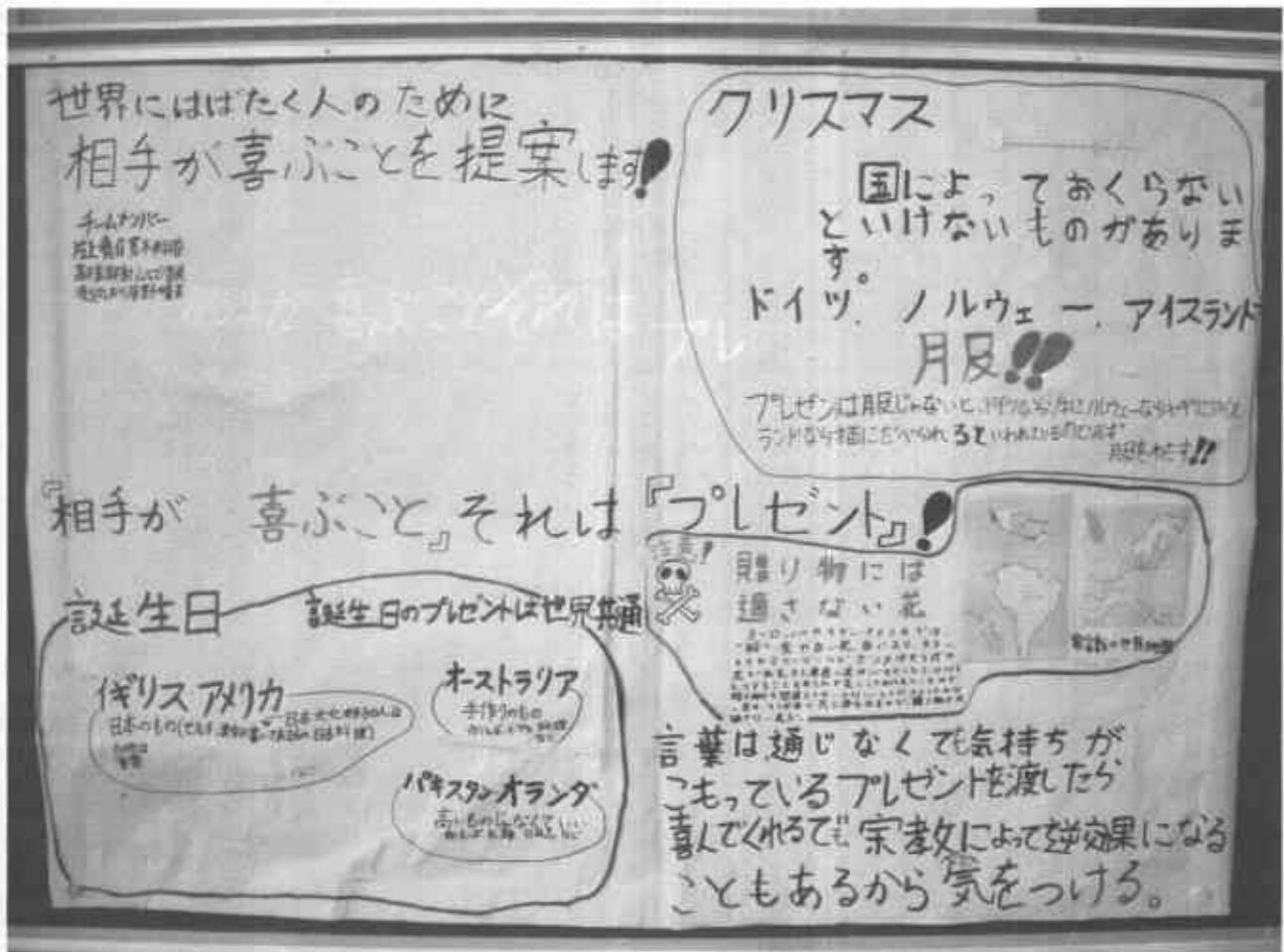
▲制作物完成！プレゼン成功！
<12月4日 6年教室前>



▲チームの提案が決まった！
<10月2日 4階ホール>



▲制作物完成！プレゼン成功！
<12月4日 6年教室前>



▲チームの提案が決まった!
<10月2日 4階ホール>

▲制作物完成! プレゼン成功!
<12月4日 6年教室前>

>

**これから、イスラム教を信じる人に
会う人のために、イスラム教についてこれた
は知りあかないといけないことを提
案します！**

チームメンバー
野田弘生 岩崎恭
若井智哉 西村裕
内田亮

コーランは大切
コーランは、神の教えが書かれている。とても大切にされています。
このコーランはイスラム教徒としてしなければならないことでもいいことしてはいけないことが書かれています。

イスラム教徒の人はとても大切にしています。ですから
まちがってもコーランをやぶったりよこしたりしないでください。
まちがにもたなの上にかなづすコーランを置くことや
コーランにせきむけてはいけないなど注意あります。

旅行中の注意点
旅行中は飲食はおそれるが後日あらためて
飲食を行なう。

一食ではいけない物がある
一食ではいけない物がある。まず酒はよくある
禁物です。また、肉を食べてもいけないことがあります。

モスクは神聖！！

- モスクに入るとときは、体のよごれをしきりあとす!!
- 服装もしかりと正常なものをきてくる。
- 内部での飲食や無用なおしゃべりは
つねにつつしむべきである。
- 祈りを捧げる人々の前面には、決して立ってはならず、後方で静かに終わら
(世界の地理) のを待つか。
P52 > モスクはマナ(まな)となる。という

おいのりはとても大切!!

- イスラームは1日5回もお祈りをする!!
- いつお祈りするかは決まっている!!
- メッカのカバ(神殿)の方角に向かってお祈り!

**イスラム教についてこれただけはしてあらう
といけないことは5つあります**

コーラン	神の言ひのマナ(まな)	モスク	入るときの脱(ぬぐ)きマナ(まな)
食べ物	食べさせないもの	1日5回	おいのり
断食	9番目の時は よう注意!!	二の	うつす



▲チームの提案が決まった！
<10月2日 4階ホール>



▲制作物完成！プレゼン成功！
<12月4日 6年教室前>

この国の人と会う人のために会った時の動作や言葉を提案します！

どの国にも かはよう こんばんは こんばんは ありがとう

あいさつがある！

日本語	オーストラリア	オランダ	中国
英語	リモート	アーフターン	グッドバイ
オーストラリア	ドミニク	ハーフ	サンキュー
オランダ	ボンデア	トトウルテ	オブリガード
中国	ドロードウ	トリニティ	スパレーバ
フランス	フランクフルト	オランダ	マニシサント
中華	サオントン	ニーハオ	ラシラエ
韓国	アラカルト	アンニバ	カムハムニタ
ドイツ	ケーテンモルツ	トーラー	グカクーン
フランス	おニーハウ	ブルー	トシ・イクル
イタリア	アシナ	トロ	タオタコ
ハイチ	アロナ	アロナ	ガハロ
スペイン	ハリタス	エナ	グラシス

その時おじぎは通用しません♪

おもしろいあいさつ

この国の人と会う人のために会った時の動作や言葉を提案します！

どの国にも かはよう こんばんは こんばんは ありがとう

あいさつがある！

どの国にも かはよう こんばんは こんばんは ありがとう

あいさつがある！



▲チームの提案が決まった!
＜10月2日 4階ホール＞

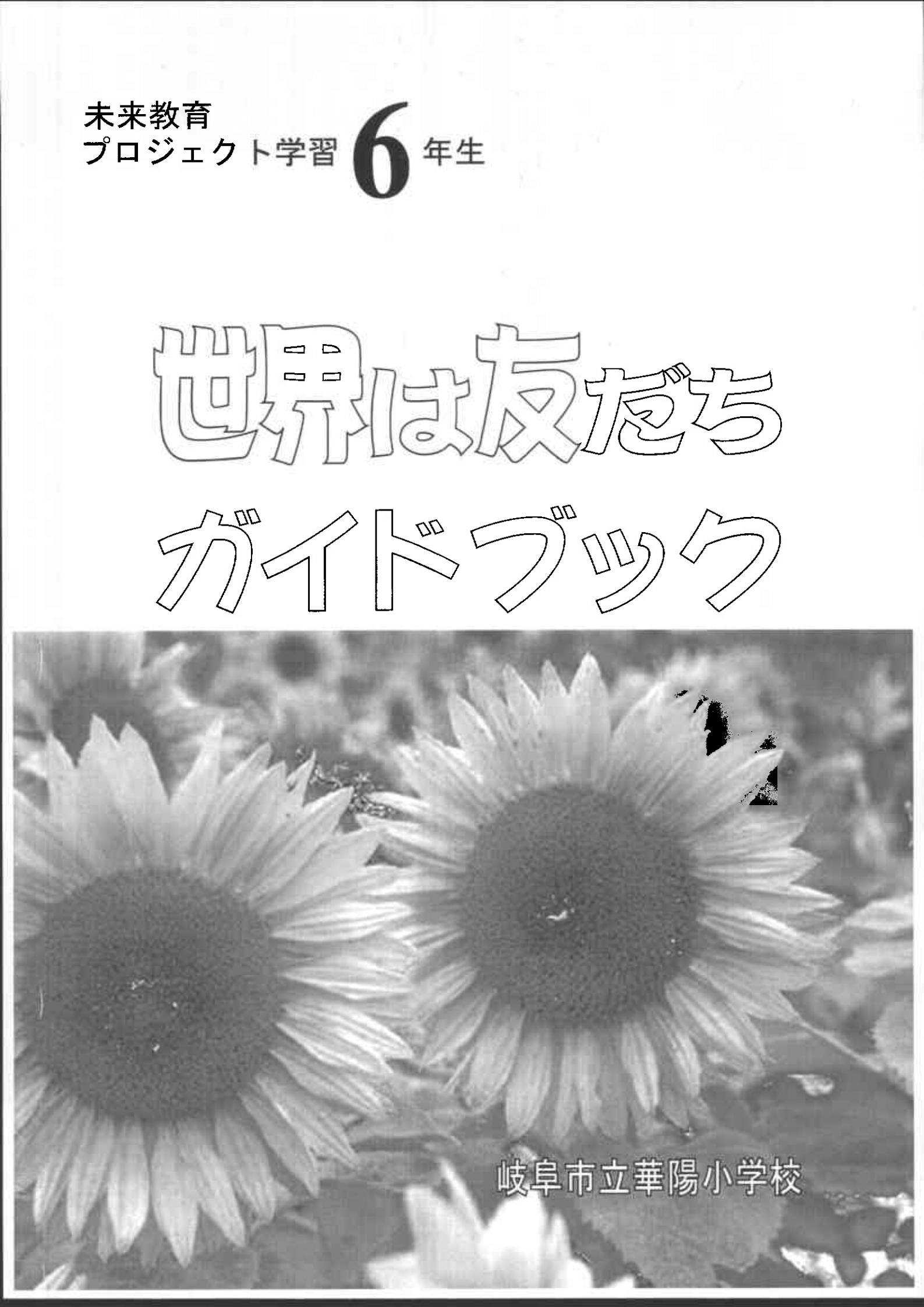


▲制作物完成！プレゼン成功！
<12月4日 6年教室前>

成 果 物

未来教育
プロジェクト学習 **6** 年生

世界は友だち ガイドブック



岐阜市立華陽小学校